

# 「交通を取り巻く現状等について」

「令和 5 年度 第 2 回交通・物流連携会議」

北海道総合政策部交通政策局

# 持続的な鉄道網の確立に向けた利用促進等の取組

- 道及び沿線自治体等においては、持続的な鉄道網の確立に向けて、JR北海道の徹底した経営努力を前提に、国の実効ある支援とともに、**地域においても可能な限りの支援・協力が必要との認識のもと、JRと連携して利用促進やコスト削減の取組を進めている。**
- **令和5年度は、黄線区において、鉄道の利用拡大に資する実証事業（国・道が支援）に取り組んでいる**ほか、国の監督命令に基づき、JRが策定したアクションプランによる地域と一体となった利用促進等の取組について**総括的検証が行われる**こととされている。

## 道の取組

### ■利用促進に資する車両取得への支援

- ・特急車両ラベンダー編成の導入
- ・H100形ラッピング車両の導入  
(北海道高速鉄道開発(株)が取得し、JR北海道へ無償貸与)



### ■ぐるっと北海道・公共交通利用促進キャンペーンの実施

- ・交通事業者による道内周遊割引乗車券等の販売に対する支援



### ■各線区における鉄道の利用拡大に資する実証事業への支援

### ■鉄道ネットワークの重要性を評価・分析する事業の実施

## 北海道鉄道活性化協議会（全道展開）

市長会、町村会、経済団体、医療・教育関係団体など幅広い分野の関係者の参画のもと、全道15団体で設立し、全道的な利用促進の取組を実施

### ■北海道公共交通利用促進運動の展開

- ・道や地域が実施するノーカーデーとの連携
- ・HPのリニューアルによる発信強化

### ■利用促進に向けた地域の取組との連携

- ・H100形ラッピングトレインの活用支援
- ・観光列車のおもてなしの実施
- ・子ども向けの鉄道等乗車体験会の実施

### ■道民・観光客の利用拡大

- ・道内周遊企画の実施
- ・ラベンダー編成等の周遊ツアーへの支援
- ・道内外でのプロモーションの実施
- ・インバウンド向けインフルエンサーの招聘

### ■鉄道網の重要性や地域の取組等の発信



## 地域の主な取組（黄線区）

### 宗谷線（旭川～稚内間）

- ・観光列車モニター運行の実施
- ・子ども鉄道体験乗車ツアー



### 根室線（滝川～新得間）

- ・「JR根室本線の見どころMAP」の作製
- ・根室線フォトコンテンツの実施



### 室蘭線（苫小牧～岩見沢）

- ・出前授業・体験乗車によるマイルール意識醸成
- ・室蘭本線開通130周年記念イベントの開催



### 日高線（苫小牧～鶴川）

- ・「むかわ竜」ラッピング列車の運行
- ・JR北海道社員による出前授業・乗車体験



### 石北線（旭川～網走間）

- ・ミステリートレイン2022の実施
- ・地域による特急列車内での特産品販売の実施



### 富良野線（富良野～旭川間）

- ・富良野線鉄道フォトコンテストの開催
- ・鉄道施設子ども見学ツアー



### 釧網線（網走～釧路間）

- ・サイクルトレインのモニター運行
- ・駅の季節営業化への協力



### 根室線【花咲線】（釧路～根室）

- ・花咲線利用可能性調査
- ・ラッピングトレインの運行



## 鉄道の利用拡大に資する実証事業

### ■線区共通

- ・公共交通利用実態調査
- ・鉄道・バス共通時刻表

### ■各線区における取組

- ・サイクルトレイン実証運行（釧網線・花咲線）
- ・海側指定席導入実証運行（花咲線）

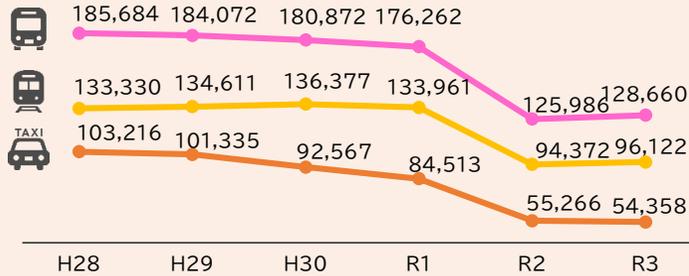
- ・フラノラベンダーエクスプレス延長運転（富良野線）
- ・沿線住民を対象とした特急料金の補助（宗谷線）
- ・JR利用者に管内バスフリーパス購入の補助（石北線）

- ・JR定期券利用者の沿線バス利用無料化（室蘭線・日高線）
- ・JR一日散歩きっぷ利用者のバス利用無料化（根室線・室蘭線・日高線）

# 交通を取り巻く現状

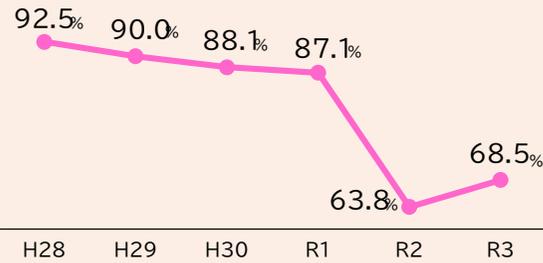
- モータリゼーションの進展、沿線人口の減少等により利用者は減少傾向で推移している中、コロナ禍により急速に減少
- 乗合バス事業の経常収支率は、恒常的に100%を下回っており、R3年度は回復傾向にあるものの、依然としてコロナ禍以前までは戻っておらず、地域間幹線系統についても、運転手不足や利用者減に伴い、減少傾向が続いていることから、国や関係団体とも連携しながら各種取組を実施

バス、鉄道、タクシー利用者数（千人）



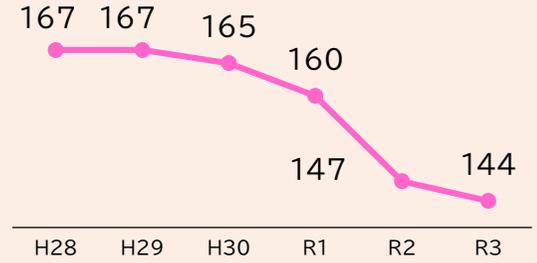
【出典】数字でみる北海道の運輸(北海道運輸局)

バス事業者の経営状況（経常収支率）



【出典】北海道のバス事業(北海道バス協会)

補助系統数（地域間幹線系統数）



【出典】数字でみる北海道の運輸(北海道運輸局)

## バス事業者への経営支援

### バス運行対策・利用促進事業

地域住民の生活に必要な不可欠な路線の維持確保のため、支援を実施

区分	対象	R4年度実績
地域間幹線系統	複数市町村を結ぶ広域的・幹線的な路線 国 1/2 道 1/2	12億7,962万円
広域生活交通路線	複数市町村を結ぶ準広域的な路線 道 1/2 市町村1/2 単一市町村内のみの準広域的な路線 道 1/3 市町村2/3	1億6,759万円
市町村生活バス	市町村が運行する路線 道1/10 市町村9/10	3,132万円

### 地域公共交通事業者等臨時支援事業

燃油高騰等による厳しい状況を鑑み、臨時的支援を実施

区分	対象台数	R4年度実績
バス	乗合1,662台 貸切2,369台	4億2,012万円
タクシー	法人7,926台 個人1,219台	2億3,725万円

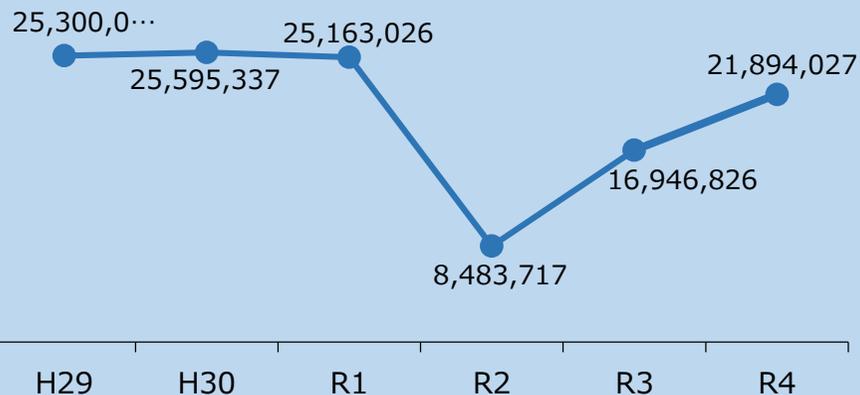
## 運転手の確保対策

既存の主な取組【継続実施(R5以降も実施)】	
就職相談会の開催	道バス協会やハローワーク等と連携して実施 【R4開催地】旭川、札幌、帯広 【R5開催地】旭川、札幌、帯広、函館、北見、釧路、小樽
二種免許の取得支援	道バス協会と連携し、二種免許取得費を支援した事業者に対する取得費支援(一律1人当たり5万円の助成)
採用情報等の発信	道バス協会取りまとめの採用情報を活用したPR R5からは自衛隊向けや道イベント等で更にPR
新たな取組【新規実施(R5から実施)】	
啓発資材の作成	運輸人材確保に向けた啓発資材の作成、PR
道外向けPR	首都圏開催のイベントにブース出展(いずれも初出展) R5.09.09 北海道UIターンフェア / 道労働局主催 R5.10.28 どんらびEXPO2023 / 民間事業者主催 R5.11.11 北海道移住交流フェア / 道主催
web合同セミナー	事業者のHP等発信力向上に向けたセミナー開催
地域公共交通計画に基づく全道各地の取組	小中学校や道立学校訪問など運転手の魅力向上に向けた取組の実施

# 航空を取り巻く現状

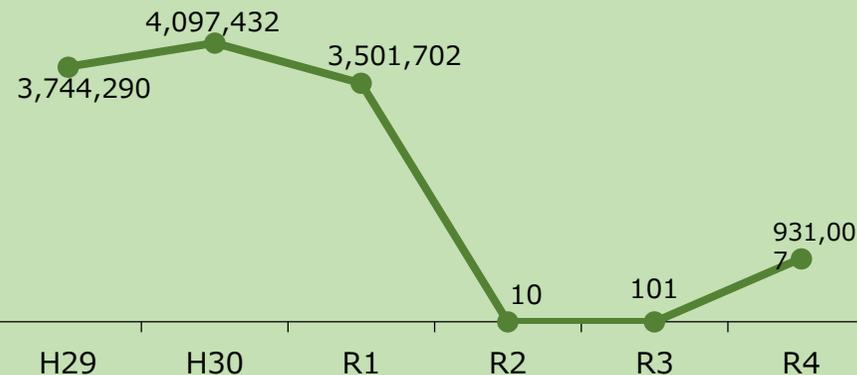
○コロナ禍の影響により、国内線・国際線ともに航空需要は落ち込んだが、令和4年度においては、コロナ禍前の令和元年度に比べ、国内線では約9割程度、国際線では約3割程度まで回復している状況。引き続き、本道の航空ネットワーク充実・強化に向けて各種事業に取り組んでいく。

道内空港利用者数（国内線）（人、年度）



【出典】 空港管理状況調書（国土交通省）

道内空港利用者数（国際線）（人、年度）



【出典】 空港管理状況調書（国土交通省）

## 航空ネットワークの充実・強化に向けた道の取組（R5年度）

《国内線関連》

事業名	事業内容	事業費（千円）
道内航空需要創出広域連携事業	市町村等が連携して実施する利用促進事業や地域振興事業に対する支援	24,000
航空地上支援業務普及啓発事業	航空地上支援業務(グラント・トルリガ)を行う人材を確保するための支援	2,865
委託外空港チャーター便誘致事業	民間委託外空港に運航するチャーター便に対する支援	4,089
地方空港新規路線誘致促進事業	民間委託外空港に新たな国内航空路線を就航する航空会社に対する支援	16,375
離島航空路線維持対策費	離島航空路線の就航に係る経費に対する支援	45,738

《国際線関連》

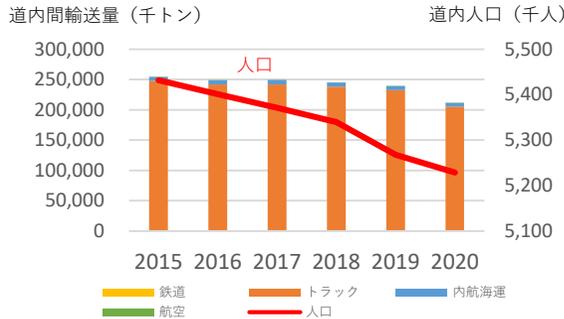
事業名	事業内容	事業費（千円）
国際航空定期便就航促進事業	道内空港に新たな国際航空路線を就航する航空会社に対する支援	17,600
国際航空定期便再開促進事業	新千歳空港以外の地方空港に新規就航する航空会社に対する支援	9,900
新規就航誘致活動事業	道と北海道エアポートが連携して戦略的にエアライン誘致活動を実施	8,241
国際線利用促進緊急対策事業	市町村等が実施するアウトバウンド需要創出事業に対する支援	5,000

# 物流を取り巻く現状と取組

## 本道貨物輸送量と人口の状況

- 本道における貨物輸送量は、ほぼ横ばいで推移。
- 道内間輸送量の9割以上がトラック輸送。
- 人口減少の進行により、過疎地域等での配送が困難になることが懸念。

### 【道内間輸送量と人口の推移】

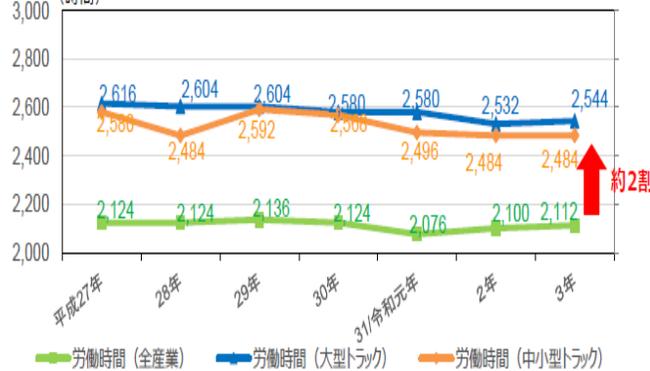


出典：数字でみる北海道の運輸 令和4年版（北海道運輸局）、住民基本台帳（総務省）

## トラックドライバーの働き方を巡る状況

- トラックドライバーは全産業平均と比べ、労働時間が約2割長く、年収は約1割低い。

### 【年間労働時間の推移】



出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」（厚生労働省）

## トラックドライバー数の推移

- トラックドライバー数は2000年頃をピークに減少しているが、近年は横ばいで推移。
- 今後、担い手の減少が急速に進んでいくおそれあり。

### 【道路貨物運送事業者の運転従事者数の推移】



出典：ロジスティクスコンセプト2030（2020年2月、日本ロジスティクスシステム協会）  
日本のトラック輸送産業現状と課題2022（全日本トラック協会）

## トラックドライバーの時間外労働の上限規制等

- 令和6年度(2024年度)から、トラックドライバーに時間外労働の上限(休日を除く960時間)規制が適用。
- 労働条件の向上をはかるため拘束時間、休息時間等の基準を定める「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準告示)が改正され、令和6年度から適用。

法律・内容	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
時間外労働の上限規制(年720時間)の適用【一般則】		大企業に適用	中小企業に適用				
時間外労働の上限規制(年960時間)の適用【自動車運転業務】							適用
年休5日取得義務化		適用					
月60時間超の時間外割増賃金引き上げ(25%→50%)の中小企業への適用						適用	

主な改正点	現行(～2024.3)	見直し後(2024.4～)	根拠法令等
時間外労働時間	—	最大:960時間	働き方改革関連法
1年の拘束時間	3,516時間	原則:3,300時間 最大:3,400時間	改善基準告示
1ヶ月の拘束時間	原則:293時間 最大:320時間	原則:284時間 最大:310時間	改善基準告示
1日の休息期間	継続8時間	継続11時間を基本とし、9時間を下回らない	改善基準告示

## 安定的な物流確保に向けた方策

### 北海道における安定的かつ効率的な物流体制の確保に向けた検討報告書【R4.5、道】

本道物流の現状や課題のほか、今後、起こりうる様々な情勢の変化に適切に対応し、将来にわたって安定的かつ効率的な物流体制を確保していけるよう、方策の検討に当たっての視点や具体的な方策例を取りまとめ

### 物流革新に向けた政策パッケージ【R5.6、国】

荷主企業、物流事業者、一般消費者が協力して我が国の物流を支えるための環境整備に向けて、(1)商慣行の見直し、(2)物流の効率化、(3)荷主・消費者の行動変容、について、抜本的・総合的な対策を「政策パッケージ」として策定。